

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： ソーシャル・イメージング：創造的活動促進と社会性形成支援
2. 研究代表者： 鈴木 健嗣（筑波大学システム情報系 教授）
3. 中間評価結果

ヒューマンインタフェースと臨床発達の研究が連携することによって、発達障害児、特に自閉症スペクトラム症障害児（以下、自閉症児と呼ぶ）が苦手と言われているグループ行動に変容が起きる療育支援の知能システム開発を目指す。グループ・インタラクション行動を活性化する実証拠点を特別支援学校および発達支援療育施設に構築し、拠点をを用いて小児ら自閉症児がふれあうと反応する装着型機器やグループ行動を促進する提示法を提案した。それらを用いた発達支援法が発達障害児の社会的インタラクションを促進することも明らかになりつつあり、研究は順調に進んでいる。これらの成果はヒューマンインタフェースおよび発達支援関連のトップレベルの論文誌や国際会議に多数発表されており、学術的に十分なレベルに達している。今後、ソーシャル・イメージング技術が国際的に受容されるには、機器、提示法の有効性・信頼性検証、新しい発達支援方法と定量的なエビデンス検証や介入研究の有効性を明らかにすることが重要である。それと同時に、これまで行ってきた、多数の支援者向けワークショップの実施や学校教育における現場応用などのアウトリーチ活動の成果を最大限活かして、国際的な研究機関との共同研究・ワークショップ・規範創りなどを戦略的・計画的に進めることにも注力してほしい。